

完成記念・特別有料試写会

監督 東陽一 主演 桃井かおり

もう頬づえはつかない

あんぐる+ATG提携作品／1時間53分



さようなら
やさしさだけの男たち
ある朝 女がひとり
美しく巣立っていった…

企画 多賀祥介
製作 有馬 孝
原作 見延典子
脚本 小林竜雄
東陽一
撮影 川上皓市
照明 磯崎英範
美術 綾部郁郎
録音 久保田幸雄
音楽 田中未知
主題歌 荒井沙知
音楽制作 古俣則夫
記録 八巻慶子
編集 市原啓子
スチール 山田脩二
助監督 栗原剛志
製作補佐 佐々木啓
キヤスト
桃井かおり
奥田英二
森本レオ
加茂さくら
根岸明美
織本順吉
伊佐美津江
都倉成美
日夏たより
多田千香
岐呂美沙子
田村三輪子
倉地雄平
市川夏江
大橋芳枝
花上晃
伊丹十三

解説

一九七八年、ブルーリボン最優秀作品賞、キネマ旬報ベストワンなどで日本映画界の話題をさらった『サード』の鋭き、東陽一が、再びATGと提携して作った作品である。

原作は、発売以来、同世代の学生やOLに熱狂的に受け入れられ、ベストセラーとなった見延典子の早大文芸科卒業小説。一人の女子大生の愛と性を、二人の男子学生をからませて描いたさわやかな青春小説であり、女性読者から「まるで自分のことが書かれているようだ」と言われるような、生々しいセックス場面をかわいたタッチで描いている。

映画化するにあたって、東陽一は「若い女の息づかいのクロロズアップ」、あるいは「体温の伝わる」映画にしたいと語り、原作のエッセンスを生かした上で、いわば70年代の総結算ともいべき作品に仕上げていく。まり子と橋本の70年代、恒雄の全共闘世代、そして高見沢夫妻の中年世代といった世代論と時代をふまえながら、男と女の実像にせまろうとする。いわば現代の青春を切実に生きている人間たちを「日常生活」から照射しようとするものだ。脚本は「もつとしなやかに・もつとしたたかに」、「ホワイトラブ」などの新鋭、小林竜雄と東陽一の共作。撮影は「サード」のフレッシュユナ映像で注目をあびた川上皓市。録音は毎日映画コンクール録音賞に輝く久保田幸雄。音楽はこれまた「サード」に続いて東陽一が担当する注目の女性作曲家、田中未知である。主題歌は寺山修司が作詞し、荒井沙知が歌う。

主演の桃井かおりは、企画発表時から名乗りをあげ、「東さんがこの映画を他の女優で作っても知れないというので、とても嫉妬を感じた」と語ったほどで、意欲充分。彼女の全く新しい魅力をいかにうまく発揮している。

あらすじ

早大の学生のまり子は、同じ大学の商学部で奇妙な同棲生活をしていて。バイト先で知り合い、そのまま橋本がまり子の部屋に転がりこんできたのだ。二人は当然のようにセックスをする仲になるのだが、まり子は避妊具を付けることを要求した。まり子は半年前に行くえをくらました。風来坊の恒雄の存在を忘れる訳にはいかなかった。恒雄は三十過ぎの牙のでないルポライターだった。まり子は恒雄と出会い、急速に恋に落ち入り、同棲し、ふり回され、そのあけく薬剤師になろうとするささやかな夢を捨ててしまひ、大学を変えた。まり子にとって恒雄と、日常生活にこだわる橋本とは対照的な二つの「男」のタイプに思えた。そうはいっても身近にいる男である橋本の愛嬌ある憎めない行動に次第に心を魅かれるようになったことも事実だった。

まり子は、恒雄とのことで札幌の母と喧嘩をし、以前から仕送りガストップしていたためにまた新しいバイトを探すことになった。大家の中年男の高見沢が妻のトキ子のやっている美容院の見習いの口を紹介してくれた。高見沢は画家くずれてトキ子が食べさせていた。風の強い日、美容院の屋上でまり子がタオルを干していると高見沢がやってきてタオルの「能率的干し方」を伝授するのだった。まり子には高見沢の男としての辛さが分るようにも思えた。橋本がまり子にビールを飲むことを提案した。橋本のアパートにいる明美というデザイン学校の学生が持っているというのだ。まり子は少し考えてから了承した。明美はまり子に酒の勢いで、彼女と橋本が以前つきあっていたことを暴露した。まり子は不愉快になって外に出るのだった。そんなある日、高見沢がトキ子にハサミで腿を刺されるといふ事件がおこった。床に飛び散った血の跡は大人の愛欲の色にまり子には思えた。美容院は当分閉めることになり、まり子は自動的にクビになった。そんなある夜、橋本と二人で眠っているまり子の部屋の扉を、激しくノックする音が聞える……。

11月13日[火] 日比谷みゆき座

開場6:00P.M.

対論 桃井かおりVS 東陽一 6:30P.M.

主題歌 荒井沙知

開映7:00P.M.

前売券¥1300

都内各プレイガイトにて発売中!